

# FF400 / FF450 / FF500

## 運転要領



### 1. 運転準備

- 1) 燃料タンクに自動車用ガソリンを入れて下さい。 **タンク容量：11L**  
※分離給油方式ですので、2サイクルオイルとの混合は必要ありません。
- 2) オイルタンクに2サイクルオイルを入れて下さい。 **タンク容量：1.2L**
- 3) ポンプを設置します。
- 4) ポンプ、ポンプカバー、及びシリンダドレンコックを閉じて下さい。又、排気コックを開いて下さい。

### 2. 運転【始動→吸水→放水】

- 1) スロットルダイヤル①を『始動』の位置にします。
- 2) メインスイッチ②を『運転』→『始動』まで回して、エンジンを始動させます。  
リコイル始動の時は『運転』にしてからリコイルスタータハンドルを引いて下さい。
- 3) スロットルダイヤル①を吸水位置にまで回し、吸水レバー③を手前に引いて真空ポンプを作動させ、吸水が完了したらレバーを戻します。  
※吸水完了の確認方法・・・吸水が完了すると圧力計が正圧を指し、真空ポンプ排気ホースから水が排出されます。
- 4) 筒先の安全を確認し、放水弁④をゆっくりと開け、スロットルダイヤル①で必要な圧力に調整します。

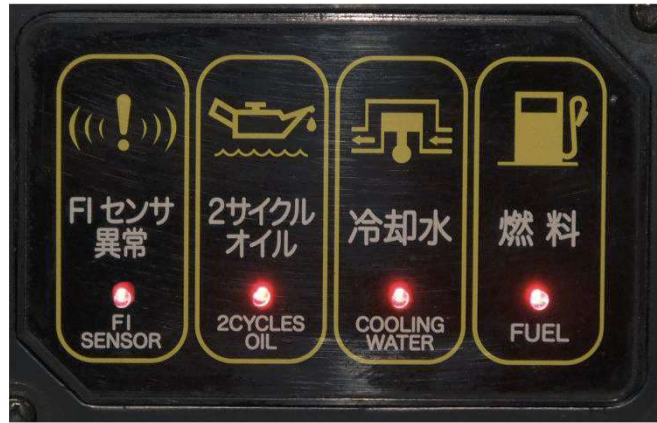
### 3. 放水の一時停止

- 1) 放水を一時停止する時は、スロットルダイヤル①を低速にしてから放水弁④を閉じます。  
※冷却水温度が上昇すると、リリース弁から温水が排出されます。  
※長時間の締切運転は避け、エンジンを停止してください。

### 4. 停止・保管

- 1) スロットルダイヤル①を低速にし、放水弁④を閉じます。
- 2) メインスイッチ②を『停止』にします。
- 3) 各部のドレンコックを開け、排水します。
- 4) 排水後各ドレンコック・放水弁を閉め、ポンプカバーキャップをつけて真空試験をしてください。  
手順) エンジン始動→真空ポンプ作動(2～3秒作動)→エンジン停止
  - ・圧力計・連成計が負圧を指しているか確認してください。
  - ・試験後はポンプドレンコックを一旦開き、ポンプ内を大気圧に戻して下さい。

## 5. OKモニタ説明



### ・OKモニタの表示内容

名称	内容
燃料	燃料が少なくなるとLEDが点灯します。
2サイクルオイル	オイル量が少なくなると焼付防止の為にエンジンを停止し、LEDが点滅します。
冷却水	冷却水の水温が高くなるとオーバーヒート防止の為、エンジンを停止し、LEDが点滅します。 ※直ちに再始動したい場合は、原因を調査・対応後にスロットルを始動位置に戻してから、再度始動して下さい。 原因が解消されていない場合は、始動後約15秒で、再びエンジンが停止します。
FIセンサ異常	スロットルポジションセンサ、冷却水温センサ、吸気温センサ、大気圧センサのいずれかの異常を感知すると点滅します。 また、インジェクタ、イグニッションコイルに接続されているコネクタが外れていても点滅します。

### ・FIセンサ異常の点滅イメージ

センサ名	点滅イメージ	
TPS (スロットルポジションセンサ)	7回連続 点滅	
WTS (冷却水温センサ)	6回連続 点滅	
ATS (吸気温センサ)	5回連続 点滅	
APS (大気圧センサ)	4回連続 点滅	
インジェクタ配線 コネクタ外れ	2回連続 点滅	
イグニッションコイル配線 コネクタ外れ	1回+2回 交互点滅	

## 6. 取扱い注意事項

- 1) 定期的に燃料を交換してください。(1回/6ヶ月) (取扱説明書 P. 22 を参照)
- 2) 定期的に高圧放水を10分程度してください。(1回/1ヶ月) (取扱説明書 P. 13 を参照)  
※必ず筒先ノズルを使用してください
- 3) 放水後は排水及び真空試験を必ず行ってください。(取扱説明書 P. 13 を参照)
- 4) ポンプはなるべく水平かつ吸水面近くに、枯草等を避けて設置してください。(取扱説明書 P. 9 を参照)
- 5) 危険防止の為、筒先の状況を確認しながら圧力調整してください。(取扱説明書 P. 11~12 を参照)
- 6) 詳細は取扱説明書をご参照ください。